

〈論文〉

日本の国際放送が報じた北朝鮮による拉致問題 ～NHK WORLD-JAPAN「コリアン・サービス」のニュース分析から～

田中則広

要約

本研究の目的は、公共放送のNHK(日本放送協会)が実施するラジオ国際放送「NHK WORLD-JAPAN」のストレートニュースを検討対象として、北朝鮮による日本人拉致問題関連ニュースの報道傾向を考察することにある。

北朝鮮=朝鮮民主主義人民共和国を聴取対象地域の一部として、日本国内からコリアン(韓国語、朝鮮語)により直接伝えられるNHKラジオ国際放送のニュース内容を検討した結果、拉致問題関連ニュースを取り上げた回数は月ごとに大きな差があることが判明した。拉致問題に関するニュースについては、コンスタントに一定の量を伝えるのではなく、ニュースが出た際に集中的に報道するスタイルであることが推察された。また、弾道ミサイルを頻繁に発射するなど、世界的にも注目を集める北朝鮮の動向を扱った内容は、ニュースオーダーの上位で取り上げることが多いのに対し、日本国内の拉致被害者家族の動向、および、拉致問題に関する首相や官房長官の発言内容は、ニュースオーダーの中位から下位にかけて扱う傾向にあることが確認できた。

キーワード

ラジオ・ジャパン NHKワールド 対北放送 拉致被害者 命令放送

はじめに

NHKは1960年4月、短波によるラジオ国際放送のコリアン・サービス(韓国語放送、朝鮮語放送)を「朝鮮向け」に開始した¹。すでに60年を超える歴史を有しているが、科学技術の発展とともに情報発信の形態も多様化し、現在では短波による送信のほか、放送衛星を用いたデジタルラジオ放送、インターネットによるコンテンツの配信なども実施している。

NHKの国際放送NHK WORLD-JAPANは、短波放送やインターネットなどにより、多言語で情報発信をしているNHK内の国際放送局という部局が運営している。NHK WORLD-JAPANのコリアン・サービスで放送しているストレートニュース(以下、コリアン・ニュース)の場合、ニュースの担当者は、NHK報道局が出稿した日本語の原稿を選択・編集し、翻訳作業を経て放送を実施している。

たなか のりひろ：淑徳大学 人文学部 准教授

放送コンテンツは主に3種類の内容で構成されている。第1に『ニュース』、第2にオーディオドラマ形式のレッスンを通じて日本語の実用表現を学ぶ『やさしい日本語』(原文タイトル:일본말 첫걸음(日本語第一歩))。ただし、日本語の名称は『やさしい日本語』)、第3にリスナーから寄せられた手紙や話の内容を紹介し、日本の様々な話題を紹介する聴取者参加型の番組『ハナカフェ』(하나카페)である。

これまで、『ハナカフェ』などの番組内で紹介されてきた聴取者からの反響は韓国国内、および、中国東北地方からの手紙が大半を占めており、北朝鮮本国からの「声」が伝えられることはほぼ皆無であった。しかし、容易ではないものの、短波という電波の特性から、北朝鮮国内においてもNHKの放送を聴取することは可能である。それゆえにNHKのコリアン・サービスは、日本から北朝鮮に向けてダイレクトに情報を伝えることができる数少ないチャンネルであるといえる。

NHKのラジオ国際放送をめぐっては2006年11月、菅義偉総務相(当時)がNHKに対し、「北朝鮮による日本人拉致問題に特に留意すること」との具体的な指示を出している。こうした命令を行った理由について菅総務相は、「北朝鮮に対して『拉致問題が日朝間の最重要課題』という日本政府の毅然とした姿勢を示す」「北朝鮮にいる拉致被害者に日本政府等が全力で救出活動をしている事実を伝える」「拉致被害の家族会等からも命令放送を求められていた」点を挙げている。しかし、NHKラジオ国際放送に対する総務相の「命令放送」は、放送法に定められているとはいえ、放送の自由への介入につながるとして、メディア界やメディア研究者などからは反対の声も上がった²。

日本人の拉致問題に関するNHK国際放送の報道傾向に関する先行研究としては、日韓両国の公共放送が運営する「対北放送」のニュースにおける北朝鮮報道の内容分析を行った田中論文が挙げられる。拉致問題に関して、韓国・KBSの韓民族放送は、日本の首相の発言を伝えるといった形での扱いが多い一方、NHKのコリアン・サービスは、拉致被害者家族の活動の様子やこれらに関連した首相の動向、記者解説など、多様な伝え方をしていることを指摘している³。

1 調査方法

北朝鮮による日本人の拉致問題に関する報道内容を検討、分析するための素材として、NHK WORLD-JAPANのコリアン・ニュースを、2021年7月から2022年6月にかけて12か月間にわたり収録した⁴。また、放送後にインターネット上において期間限定で公開されたニュースのオーダーと放送原稿を複写するとともに、国内向けのニュースとの違いを見るために、NHK総合テレビの12時からの全国ニュース(以下、『正午ニュース』)、および、『NHKニュース7』を収録した。

【表1】コリアン・ニュース放送時間・周波数

(2021年10月31日10:00~2022年3月27日10:00)		(2022年3月27日10:00~2022年10月30日10:00)	
放送時間(日本標準時、平壤時間)	周波数	放送時間(日本標準時、平壤時間)	周波数
月~金 13:15 - 13:30 土・日 13:15 - 13:25	11895 kHz	月~金 14:00 - 14:15 土・日 14:00 - 14:10	11870 kHz
月~金 20:00 - 20:15 土・日 20:00 - 20:10	6090 kHz	月~金 20:00 - 20:15 土・日 20:00 - 20:10	13835 kHz
月~金 21:00 - 21:15 土・日 21:00 - 21:10	6090 kHz	月~金 21:00 - 21:15 土・日 21:00 - 21:10	13835 kHz
月~金 22:00 - 22:15 土・日 22:00 - 22:10	6190 kHz	月~金 22:00 - 22:15 土・日 22:00 - 22:10	6190 kHz
月~金 23:00 - 23:15 土・日 23:00 - 23:10	6190 kHz	月~金 23:00 - 23:15 土・日 23:00 - 23:10	6190 kHz

2

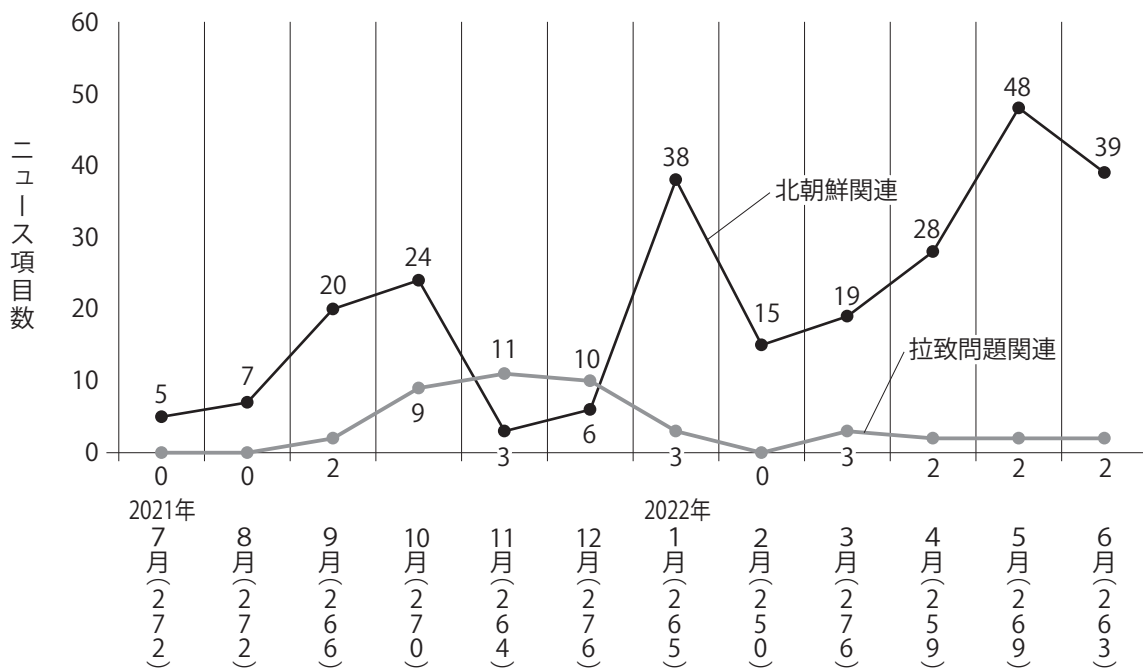
本研究で取り上げた期間とは多少のずれがあるが、2021年度下半期と2022年度上半期のコリアン・ニュースの放送時間と周波数は【表1】のとおりである⁵。2022年3月27日に国際放送の昼の放送時間の変更されたため、現時点(2022年9月)では1日5回、日本時間(平壤時間も同様)14時から昼のニュースが、20時から4回にわたって1時間ごとに繰り返されている。緊急情報が入った場合は、適宜、ニュース項目の差し替えが行われている。

研究のために収録した昼のニュースの放送時間は、平日が実質14時01分からの14分間(オープニングを含むため、編成上は15分間)、土曜日と日曜日が14時01分からの9分間(編成上は10分間)である。これらのニュースをすべて聴取し、北朝鮮による日本人拉致問題関連の項目と、拉致問題を除いた北朝鮮関連の項目を抜き出し、日付、曜日、オーダー、内容などを整理した上で、検討作業を行った。

2 「拉致問題」報道の月別変化

2021年7月1日から2022年6月30日にかけての12か月間(365日)で、コリアン・ニュース(本放送分)では、合計3,202本のニュースを取り上げている。このうち、日本人拉致問題に関するニュース項目は合計で44本、また、拉致問題を除いた北朝鮮関連のニュース項目についても算出したところ、合計で252本を確認することができた⁶。北朝鮮関連のニュース内容は、2022年1月以降、北朝鮮が頻繁に行った弾道ミサイル発射の報道をはじめ、それらをめぐる日米の協議や国連の動きなどが挙げられる。このほか、北朝鮮国内における新型コロナウイルス感染者の発生、韓国政府などによる北朝鮮へのワクチン提供打診の動き、北朝鮮による北京オリンピック不参加表明、中朝の国境貿易など多岐に及んでいる。ニュース項目数を単純に日本人拉致問題のニュース項目数と比較することは適切ではないが、コリアン・ニュース全体における大まかな傾向を把握する上では参考になると考え、それぞれのニュース項目数を月別に示した【表2】。

【表2】コリアン・ニュースにおける北朝鮮関連および拉致問題関連のニュース項目数 [2021年7月～2022年6月]



※ ()内の数字は、その月に放送したニュース項目数

【表3】コリアン・ニュースの日本人拉致問題関連項目一覧[2021年7月～2022年6月]

日付(年/月/日)	順位	ニュースタイトル
2021/9/8	7	北朝鮮拉致被害者松本京子さん73歳の誕生日
2021/9/29	8	菅首相“拉致問題、大変申し訳ない”
2021/10/3	4	めぐみさんの家族、拉致問題解決を訴える
2021/10/3	5	日本の官房長官、“新政権でも拉致被害者の帰国実現に努力する”
2021/10/5	3	岸田首相、拉致問題に強い心と覚悟で努力
2021/10/5	4	拉致被害者横田めぐみさんの誕生日を迎え、家族が早期解決を訴える
2021/10/6	10	めぐみさん帰国を祈願して青いバラを販売
2021/10/8	7	北朝鮮、拉致問題はすでに解決したとして日本を牽制
2021/10/8	8	日本の官房長官、“北朝鮮の主張は全く受け入れられない”
2021/10/15	3	北朝鮮拉致被害者蓮池さん、“北朝鮮に利益と不利益を具体的に”
2021/10/19	8	岸田首相、拉致被害者家族に会って問題解決の決意を明らかに
2021/11/5	7	松野官房長官、“拉致を認めるかどうかは関係なく全員帰国推進”
2021/11/13	6	拉致被害者横田めぐみさんの母校で同級生が講演
2021/11/14	4	拉致被害者家族、“すべての被害者の一刻も早い帰国実現”を要求
2021/11/14	5	岸田首相“自分の手で拉致問題を必ず解決する”
2021/11/15	2	横田めぐみさんの拉致から44年、帰国を願う集会が開かれる
2021/11/15	3	松野官房長官、拉致問題解決へ決意強調
2021/11/17	10	拉致被害者横田めぐみさんの友人たち、思い出の歌を熱唱
2021/11/18	1	国連で拉致被害者の早期帰還を促す決議案採択
2021/11/21	4	北朝鮮、“国連決議は主権侵害”
2021/11/25	8	デンマーク外相、拉致被害者家族と面会
2021/11/28	6	めぐみさんとの再会を約束するコンサートが開かれる
2021/12/10	2	岸田首相、人権保護を強調
2021/12/11	6	拉致家族会代表が健康上の理由で退任
2021/12/12	3	拉致被害者家族会の3代目代表に横田拓也さんが就任
2021/12/12	4	岸田首相“拉致問題の解決は最も重要な課題”
2021/12/18	1	拉致被害者家族会前代表の飯塚繁雄さん死去
2021/12/18	2	田口八重子さんの長男飯塚耕一郎さん、“再会できず無念”
2021/12/18	3	横田めぐみさんの母親“本当に残念”
2021/12/18	4	松野官房長官、“再会実現できず申し訳ない”
2021/12/19	7	松野官房長官、“拉致問題の解決は一刻の猶予もない”
2021/12/26	3	拉致被害者家族会、政府に被害者帰国対応を強く要請
2022/1/3	3	拉致を認めた日朝首脳会談が開催されて今年で20年
2022/1/13	6	拉致被害者の有本恵子さん62歳の誕生日を迎え、父親が心境を明かす
2022/1/21	8	在日米国大使館担当者、北朝鮮による拉致被害現場を視察
2022/3/13	6	拉致被害者家族会の前代表のお別れ会が開かれる
2022/3/14	10	拉致被害者家族会、日朝首脳会談の早期開催を要請する方針
2022/3/15	9	拉致被害者家族、在日米国大使に協力を要請
2022/4/3	3	蓮池さん、“日朝首脳会談のための具体案の提示が必要”
2022/4/21	8	官房長官、拉致被害者めぐみさんの帰国実現署名簿を受け取る
2022/5/30	4	拉致被害者が集会を開き、主体的な対応を要請
2022/5/30	5	岸田首相、“拉致問題解決のために政府を挙げて取り組む”
2022/6/17	6	拉致被害者家族、国連シンポジウムで国際社会の協力を訴える
2022/6/28	9	北朝鮮、拉致問題の国際シンポジウムを開催した日米を牽制

※ニュースタイトルについては、放送原稿(コリアン)に記載されているものを筆者が翻訳した

2021年度下半期は、拉致問題関連のニュース項目が皆無の月もあったが、項目数は2022年度上半期の2.5倍強となっている。それは2021年10月から12月にかけて、拉致問題関連のニュースが集中的に報じられたためである。ニュースの本数は、この期間だけで全体の7割近くを占めている。

実際にコリアン・ニュースが放送した内容は【表3】のとおりであるが、2021年10月から12月にかけて、毎月のように報道のきっかけとなる出来事があったことを読み取ることができる。10月は拉致被害者の横田めぐみさんの誕生日(10月5日)、11月は横田めぐみさんが1977年に北朝鮮の作業員らによって拉致された日(11月15日)、12月は北朝鮮による拉致被害者の家族会代表を務めてきた飯塚繁雄さんの代表辞任(12月11日)、および、その1週間後の死去(同月18日)である。これらのニュースを中心に、関連情報を追加する形でニュースのオーダーが組み立てられている。

また、重要な内容から優先的に伝えていくことを原則とするストレートニュースにおいて、オーダーの確認はニュースの位置付けを知る上で欠かせない。拉致問題関連のオーダーは、44本のニュース項目のうちトップ項目は2本、2番目が3本、3番目が8本であり、6番目以降の項目で報道されたニュースはほぼ半数の21本である。北朝鮮によるミサイル発射などのように、ニュースのトップ項目、あるいは上位項目で伝えられるニュースとは異なり、拉致問題関連ニュースは、中位から下位の項目として報じられる傾向にある。

3 国内放送との比較から

コリアン・ニュースの報道の特徴を探るべく、NHKの国内向けのテレビニュース『正午ニュース』、および、『NHKニュース7』の報道内容との比較を試みた。対象時期は、拉致問題関連のニュースが数多く取り上げられている2021年10月から12月までに限定した。

[10月]

3日のコリアン・ニュースのオーダー4番目「めぐみさんの家族、拉致問題解決を訴える」と5番目の「日本の官房長官、“新政権でも拉致被害者の帰国実現に努力する”」は、2日の『NHKニュース7』が主要ニュース(6本)に続けて放送した内容である。国内放送(『NHKニュース7』)は「北朝鮮による拉致問題 新政権発足を前に家族会が訴え」と題して67秒の尺で伝えたのに対し、国際放送(『コリアン・ニュース』)は4番目を98秒、5番目を93秒の尺で伝えた。

報道内容は、拉致被害者の横田めぐみさんが57歳の誕生日を迎えるのを前に、神奈川県川崎市で集会が開かれたというものである。『NHKニュース7』はオンラインで参加しためぐみさんの母親の早紀江さん、および、加藤勝信官房長官(当時)のコメントを、本人の映像とともに音声を生かして伝えている。コリアン・ニュースは、3日のニュースも含め、すべてのニュースでインタビューなどの音声を用いず、アナウンサーが原稿を代読する形で伝えている。5番目の加藤官房長官の発言を『NHKニュース7』は「政権が変わっても、関係国と緊密に連携しつつ、すべての拉致被害者の一日も早い帰国実現に向けて、あらゆるチャンスを逃すことなく全力で行動するとの政府の方針に変わりはありません」と伝えたが、コリアン・ニュースはこの発言の前に「2002年に5人の拉致被害者が帰国して以来、1人の帰国も実現せず解決に向けての具体的な道筋を示すこともできなかった。一日千秋の思いで帰国を待ち望んでいる被害者の方々、ご家族、関係者に対し、私自身じくじたる思いであり、本当に申し訳なく思う」という陳謝の言葉も伝えている。

19日のコリアン・ニュースのオーダー8番目「岸田首相、拉致被害者家族に会って問題解決の決意を

明らかに」は、18日の『NHKニュース7』が主要ニュース(6本)に続けて放送した内容である。国内放送は「岸田首相 拉致被害者の家族と面会“解決に向け全力で取り組む”」と題して66秒の尺で伝えたのに対し、国際放送は95秒の尺で伝えた。

報道内容は、岸田文雄首相が首相就任後初めて、北朝鮮による拉致被害者の家族と面会し、解決に向けて全力で取り組む決意を伝えたというものである。『NHKニュース7』は、岸田首相、拉致被害者の家族会代表(当時)の飯塚繁雄さん、横田早紀江さんのコメントを伝えた。飯塚さんは「絶対諦めないぞっていうのが我々家族会の立場です。ぜひいろいろなチャンスをものにしていきたい」と述べ、横田さんは「私たちはあまりにも長い年月、何も分からない状態。(日朝)首脳会談をしていただきたいと。本当にこちらの、日本の思いをしっかりと相手の人に伝えていただきたい」とコメントしている。コリアン・ニュースは、岸田首相のコメントをより長めに、また、飯塚さんについても『NHKニュース7』が取り上げなかった「活動を始めて以来、現在まで数多くの首相が代わったが、まったく進展が見えず、とても遺憾です」「我々は諦めず、外国の力も借りて具体的な計画を準備することを望みます」とのコメントについても報じている。

[11月]

14日のコリアン・ニュースのオーダー4番目「拉致被害者家族、“すべての被害者の一刻も早い帰国実現”を要求」と5番目の「岸田首相“自分の手で拉致問題を必ず解決する”」は、13日の『NHKニュース7』が主要ニュース(6本)のうちの4番目に取り上げた項目である。国内放送は「拉致被害者家族“一刻も早い帰国を”」と題して186秒(岸田首相のコメント部分は36秒)の尺で伝えたのに対し、国際放送は4番目を90秒、5番目も90秒の尺で伝えた。

報道内容は、拉致被害者の家族による大規模な集会在東京で開かれたことを報じたものである。『NHKニュース7』は飯塚繁雄さん、横田早紀江さん、それに、拉致被害者の田口八重子さんの長男で、田口さんの兄の飯塚繁雄さんに実の子として育てられた耕一郎さんのコメントを取り上げている。また、岸田首相の「ご家族もご高齢となる中、拉致問題の解決には一刻の猶予もありません。私の手で必ず拉致問題を解決しなければと強く考えている」との決意を示す発言も伝えている。コリアン・ニュースは拉致被害者の家族について、飯塚耕一郎さんではなく、横田早紀江さんの長男の拓也さんのコメントを取り上げている。岸田首相については上記のほか、「2002年に5人の拉致被害者の方々が帰国されて以来、1人の帰国も実現できず、いまだに多くの被害者が北朝鮮に取り残されていることは本当に申し訳なく思う」といったお詫びの言葉も伝えている。

15日のコリアン・ニュースのオーダー2番目「横田めぐみさんの拉致から44年、帰国を願う集会在開かれる」と3番目の「松野官房長官、拉致問題解決へ決意強調」は、14日の『NHKニュース7』が6本の主要ニュースのうち、スポーツニュースを除いた5本のニュースの後に続くニュースの3番目(6番目の主要ニュースの直前)に放送した内容である。国内放送では「“一刻も早い帰国実現を”横田めぐみさん拉致あす44年」と題して53秒(松野官房長官のコメント部分は15秒)の尺で伝えたのに対し、国際放送は2番目を102秒、3番目を90秒の尺で伝えた。

報道内容は、横田めぐみさんが北朝鮮に拉致されてから15日で44年となるのを前に、拉致現場となった新潟市で集会在開かれたというものである。『NHKニュース7』は横田早紀江さんと、早紀江さんの次男の哲也さんのコメントとともに、松野博一官房長官の「すべての拉致被害者の一日も早い帰国を実現するべく全力を尽くしていく考えであります」との発言を伝えている。コリアン・ニュースは横田早紀江さん、横田哲也さんのほか、北朝鮮から帰国した拉致被害者の曾我ひとみさんのコメントも伝え

ている。松野官房長官については、上記のほか、「現場を視察し、ごく普通の通学路でめぐみさんが拉致された事実にあらためて衝撃を受け、強い憤りを感じた。44年間、ご家族と再会することも日本の地を踏むこともできていない。父親の滋さんがご存命の間に再会を実現できず、痛恨の極みだ」との発言も伝えている。

21日のコリアン・ニュースのオーダー4番目「北朝鮮、“国連決議は主権侵害”」は、同じく21日の『正午ニュース』がオーダー2番目に挙げた項目である。国内放送(『正午ニュース』)は「国連“主権侵害”決議 北朝鮮“重大な主権侵害”強く反発」と題して94秒の尺で伝えたのに対し、国際放送は72秒の尺で伝えた。

報道内容は、国連の人権問題を扱う委員会が同月17日、すべての拉致被害者の即時帰還を求めることなどを含めた北朝鮮の人権侵害を非難する決議案を採択したことに対して、北朝鮮外務省の報道官が21日に国営の朝鮮中央通信を通じて談話を発表し、強く反発したというものである。『正午ニュース』とコリアン・ニュースはともに「アメリカをはじめとする敵対勢力が我々のイメージに泥を塗ろうとする重大な主権侵害の行為であり、全面的に排撃する。我々への拒否感と偏見に染まったねつ造資料に基づく謀略文書だ」「我々は国権を侵害するいかなる試みも決して容認せず、敵視政策に最後まで強硬に対処していく」などといった北朝鮮の主張を伝えている。コリアン・ニュースは上記のほか、決議案が国連で毎年採択されていることに対する北朝鮮の「人権問題が一部の国の不純な試みを実現するための手段に悪用されている」という批判も伝えている。

[12月]

11日のコリアン・ニュースのオーダー6番目「拉致家族会代表が健康上の理由で退任」は、同じく11日の『正午ニュース』がオーダー3番目に挙げた項目である。国内放送は「拉致被害者 家族会 飯塚繁雄さん 代表を退く意向 体調不良で」と題して97秒の尺で伝えたのに対し、コリアン・ニュースは25秒の尺で伝えた。

報道内容は、北朝鮮による拉致被害者の家族会代表を14年にわたって務めてきた飯塚繁雄さんが、体調不良を理由に代表を退く意向であるというものである。『正午ニュース』は横田めぐみさんの父親の滋さんの後任として、2008年に拉致被害者の家族会の代表に就いた飯塚繁雄さんのこれまでの活動を中心に報じている。コリアン・ニュースは「一報を入れる」形で、11日の放送では簡潔に伝える程度にとどめ、詳細は翌12日の放送で伝えている。

12日のコリアン・ニュースのオーダー3番目「拉致被害者家族会の3代目代表に横田拓也さんが就任」と4番目の「岸田首相“拉致問題の解決は最も重要な課題”」は、11日の『NHKニュース7』が主要ニュース(6本)の5番目に挙げた内容である。国内放送は「家族会 飯塚代表が退任」と題して140秒(岸田首相のコメント部分は26秒)の尺で伝えたのに対し、国際放送は3番目を115秒、4番目を44秒の尺で伝えた。

報道内容は、横田めぐみさんの弟の拓也さんが、飯塚繁雄さんの後任として家族会の代表に就任したというものである。『NHKニュース7』は横田拓也さんの「(日本政府には)本当に時間がない、重要で深刻な問題とあらためて認識してもらい、全面解決、全拉致被害者の帰国につながるよう、強い交渉をしてほしい」という発言を伝えた。コリアン・ニュースは、横田拓也さんの上記とは別の発言を取り上げた。その内容は「姉が拉致された当時、私は9歳だった」「44年後に3代目の代表として闘わなければならないという現実、比べものにならない大きな矛盾を感じる」「なぜ日本政府は解決できないのか静かな怒りを感じながら代表職を遂行する」という、より強い批判を込めた内容であった。また、北朝

鮮のキム・ジョンウン(金正恩)総書記に対する「被害者全員を返せば、日朝両国は明るい未来を描いて平和を取り戻すことができると思う」「勇気ある決断を期待する」といった発言も伝えた。このほか、11日の放送では伝えられなかった飯塚繁雄さんの活動のこれまでについて、11日の『正午ニュース』(3番目)が取り上げた内容を報じている。

このほか、4番目の岸田首相のコメント内容に関して、『NHKニュース7』は「一刻の猶予も許されない、たいへん我が国にとって重要な課題であるとあらためて強く感じています。私自身、あらゆるチャンスを逃すことなく、しっかり取り組んでいきたいと思っています」という発言を紹介したが、コリアン・ニュースはこの部分の前段の「横田滋さんから北朝鮮拉致被害者家族会の代表職を受け継ぎ、これまで大きな役割と責任を担ってきた」「健康が悪化したと聞きましたが、早く回復することを心から祈る」というコメントも加えている。

コリアン・ニュースの調査期間中、拉致問題関連ニュースの1日あたりの項目数として最も多く報じられたのが、飯塚繁雄さん死去(18日)のニュースであった。18日のコリアン・ニュースは冒頭から4番目までの4項目で扱っている。オーダーは1番目「拉致被害者家族会前代表の飯塚繁雄さん死去」、2番目「田口八重子さんの長男飯塚耕一郎さん、“再会できず無念”」、3番目「横田めぐみさんの母親“本当に残念”」、4番目「松野官房長官、“再会実現できず申し訳ない”」となっており、放送尺は1番目から順に、144秒、53秒、43秒、38秒である。1番目から3番目までが、国内放送では18日の『正午ニュース』のオーダー3番目「拉致被害者家族会前代表 飯塚繁雄さん死去に悲しみの声」に相当する内容(本編と関係者のコメント)であり、放送尺は83秒(横田拓也さんのコメント部分26秒、拉致被害者・増元るみ子さんの弟の照明さんのコメント部分19秒)である。コリアン・ニュースは国内放送とは異なり、横田拓也さんの代わり飯塚耕一郎さんのコメントを、増元照明さんの代わりに横田早紀江さんのコメントを長めに取り上げるとともに、4番目については松野官房長官のコメントを報じている。

飯塚繁雄さん死去のニュースについて国内放送は、18日の『NHKニュース7』が主要ニュース(6本)の5番目に「“拉致解決を”願いかなわず」と題して報じた。放送尺は302秒で、横田拓也さん、岸田首相、横田早紀江さんのコメントを含めて詳細に伝えている。

26日のコリアン・ニュースのオーダー3番目「拉致被害者家族会、政府に被害者帰国対応を強く要請」は、25日の『NHKニュース7』が主要ニュース(6本)に続けて放送した内容である。国内放送が「飯塚耕一郎さん“生きて会えない家族が増えること許容できない”」として142秒の尺で伝えたのに対し、国際放送は109秒の尺で報じた。

報道内容は、飯塚繁雄さんの死去と関連して拉致被害者の家族会が記者会見を開き、すべての被害者の一刻も早い帰国のために日本政府が具体的に対応してほしいと強く要請したというものである。『NHKニュース7』は飯塚繁雄さんが拉致被害者の家族会代表として、救出活動の先頭に立ってきたことや、2020年以降、拉致被害者の親や兄弟が相次いで亡くなったこと、また、飯塚耕一郎さんの「他の兄弟と同じように接していただいた、育てていただいた、ということは本当に感謝に尽きる。八重子さんと本当に会わせたいという気持ちはあったのですが、会わせられなかったのは本当に無念。残念な気持ちであります」「長年頑張っていた3人が亡くなってしまって、個人としても相当悲しいし、悔しい、(被害者と)生きて会えない家族がこれ以上増えるということに関しては、許容できない」というコメントを伝えている。コリアン・ニュースは国内放送が報じた内容に加え、家族会の代表に就任した横田拓也さんの「数十年間、最前線で闘い、兄弟や家族に会えないという状況はあってはならない」「悲しい涙、悔しい涙、重い涙を今後何度か流せばいいのか、政府に聞きたい」「この問題は政治が解決しなければならない問題だ」というコメントも取り上げている。

おわりに

日本から北朝鮮をも含む地域に向けて、短波により直接送信しているNHK WORLD-JAPANのコリアン・ニュースを対象に、拉致問題のニュースに絞って報道の傾向を考察した。そこからは6点の知見を得ることができた。

第1に、時期によって報道量に大きな差異が生じている点である。拉致問題に関連した象徴的な日などは別として、メディアで伝えるほどの動きがあつてはじめてニュース原稿が作成されるため、報道量はその時々状況に左右されざるを得ない。公共放送によるニュースという性質上、次々に発生する世の中の出来事を中立公正に伝えることが大切であり、拉致問題だけを特別視してはいないことがわかる。

第2に、基本的にニュースに関しては国際放送の独自情報は存在せず、国内放送と同一の内容が伝えられている点である。これは拉致問題関連のニュースだけでなく、他のニュースについても同様である。とはいえ、『正午ニュース』や『NHKニュース7』が取り上げなかったニュースを扱うことも多い。また、これらの国内放送が取り上げたニュースのうち、放送時間などの理由により省略した部分について、国際放送では報じたケースも散見される。ただし、放送時間が30分の『NHKニュース7』は、家族会の前代表の死去に際しては、1項目で5分を越える報道を行ったが、国際放送は放送時間の制約から、ひとつの項目を数分にわたって伝えるようなスタイルは取っていない。

第3は、国際放送のニュースにはタイムラグが生じるという点である。ニュース原稿に関して、基本的には国際放送において独自に執筆するのではなく、報道局の原稿を用いることになっている。そのため、報道局から原稿が出てくるのを待たなくてはならず、出稿後には、放送時間内に収めるための原稿の編集作業、および、翻訳作業(翻訳内容に問題はないかといった検討作業を含む)も加わるため、国内放送に比べて放送までにより多くの時間を要することになる。また、報道局の原稿は、『正午ニュース』や『NHKニュース7』などの放送時間に合わせて出てくることが多いため、コリアン・ニュースは放送時間の関係上、前日の『NHKニュース7』の原稿を用いる傾向にある。昼の放送のコリアン・ニュースは、夜のコリアン・ニュースでも繰り返されるため、半日から1日程度の時間のずれが生じることになる。

第4は、国際放送が扱う拉致問題関連のニュースは、家族会の動向と政治家のコメント部分が報道内容の多くを占めている点である。元の原稿が国内放送用であることから、国内放送についても同様の指摘をすることが可能である。また、国内放送は関係者のコメントを本人の肉声を生かして放送することが多いが、国際放送は原稿を読む形式であるため、より多くのコメント内容を報じているケースを確認することができた。

第5は、国際放送が取り上げたニュース項目は、拉致被害者については相対的に横田めぐみさんに関する情報が多いという点である。北朝鮮による拉致被害者の象徴的な存在である横田めぐみさんの誕生日、また、北朝鮮によって拉致された日には、ニュースが集中する傾向がうかがえた。

第6は、拉致問題関連のニュースのオーダーの多くが、中位から下位にかけての扱いであるという点である。国内の政治状況や国際社会の動き、台風や地震などによる災害など、様々な出来事を報じる必要に迫られる状況において、上位項目で扱うことができなくても、国際放送の電波に拉致問題のニュースを乗せ続けることが重要である。

今後の課題として、拉致問題に関する情報発信、および、拉致問題を含む広義の北朝鮮向け情報発信についての検討作業が残っている。拉致問題に関する情報発信は、日本政府や日本の民間団体も北朝鮮の拉致被害者に向けてラジオ放送を通じての呼びかけという形で実施している。それぞれのスタンスは

異なるが、公共放送、国営放送、民間放送に求められる役割や相互の連携のあり方に関して検討し、その結果を受けてのバックアップ体制の構築が欠かせない。また、広義の北朝鮮向け情報発信については、北朝鮮国内での調査が困難であることは周知の事実であるものの、NHKのコリアン・ニュースを北朝鮮の聴取者たちはどのように受け止めているのかなど、受け手側の実態把握に取り組んでいかねばならない。

付記

本稿は、JSPS 科研費 JP20K20066 (研究代表者：田中則広) の助成を受けた研究成果の一部である。

注

- 1 日本放送協会編『NHK年鑑1962』日本放送出版協会、1961年、339-52頁、および、548-49頁の間に折り込まれている統計表「国際放送放送時間及び回数 昭和35年度」を参照。当時は、「朝鮮語」の名称が用いられていた。
- 2 奥田良胤「総務大臣が「拉致問題」でNHK国際放送に「命令放送」」『放送研究と調査』通巻668号、2007年1月、86頁、を参照。
- 3 田中則広「日韓の「対北放送」が伝えた北朝鮮情報～「NHK WORLD-JAPAN」と「韓民族放送」の報道内容分析～」『淑徳大学人文学部研究論集』第7号、2022年3月、57-78頁。
- 4 NHKラジオ第2放送を直接受信により収録した。
- 5 NHK WORLD-JAPANの周波数スケジュールは、2022年9月時点において紙媒体では発行していない。2022年3月27日からの情報は「NHK WORLD-JAPAN Frequency Schedule (A-22) 2022.3.27UTC01:00-2022.10.30UTC01:00」
https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ja/information/brochure/pdf/radio_frequency_schedule.pdf〈アクセス日：2022年9月5日〉を、また、2011年10月31日からの情報はリンク切れのため、田中、前掲論文、58頁、を参照。
なお、コリアン・サービス全体では、1日6回の放送を実施している。放送時間は日本時間(平壤時間も同様)の14時、20時、21時、22時、23時から30分間、および、ニュースを放送しない翌日7時9分からの21分間である。コリアン・ニュース以外の放送枠では、平日に『やさしい日本語』、土日(7時9分からの放送は前日の再放送)に『ハナカフェ』を放送している。
- 6 このほか、主題は拉致問題に関する内容ではないものの、拉致問題についても部分的に言及しているニュース項目が25本、主題は北朝鮮に関する内容ではないものの、北朝鮮についてもふれているニュース項目が28本あった。